

原稿のHTML化手順

目次

環境整備	3
作成ファイル格納用フォルダを作成する	3
アップロードは.....	3
ファイルの準備	4
テンプレートをコピー	4
テンプレート	5
表紙・目次ページ(TEMPCOVER.HTML)	5
LESSON・QUESTION分岐ページ(TEMPLQINDEX.HTML)	7
教材(レッスン)ページ(TEMPLESSON.HTML)	8
練習問題ページ(TEMPQUESTION.HTML)	10
解答・解説ページ(TEMPANSWER.HTML)	12
グループデータファイルの作成	14
テンプレート(TEMPGROUPDATAFILE.TXT)	14
ディレクトリ構造	15
リンク先	15
リンク先が、表紙・目次・教材(レッスン)の場合	15
リンク先が、練習問題ページの場合	15
コンテンツ作成に関する詳細	16
HTML記述	16
図を挿入.....	16
数式を記述(テキストで)	16
文章の途中に登場する数式や記号	17
数式画像の挿入	17
図の配置	17
数式を作成する際の注意	18
ナビゲーション	18
HTMLメモ	19
改行	19
段落	19
表	19
数式画像や図画像のファイル名の命名規則	20
図の画像ファイルの命名規則	20
数式画像ファイルの命名規則	20

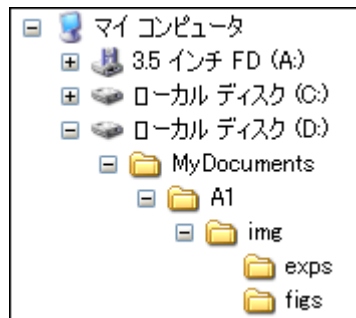
環境整備

WBT 教材作成作業を始める前の準備です。

作成ファイル格納用フォルダを作成する

作成した HTML ファイルを保存しておくフォルダを 1 つ作成して下さい。

その中に img フォルダを作成し、さらに exps フォルダを作成して下さい。(下図参照)



上図の場合は、

- HTML ファイルの格納を `D:\MyDocuments\A1` フォルダに
- 数式画像ファイルの保存を `D:\MyDocuments\A1\img\exps` フォルダに格納することになります。

このような構成にすると、サーバ上と同じディレクトリ構成になるので、ローカルでの(数式画像の)表示確認ができるようになります。

(また、サーバの `/wbt/A1/img/figs/` フォルダなどから画像(図)をダウンロードして `figs` フォルダに入れておけば、ローカルで図の表示も確認できます。) ← これは行わなくても構いません。

なお、最終的な表示確認は、サーバにアップロードした状態でしか行えませんから、ローカルでの表示確認は省略しても構いません。

アップロードは

作成できたら、サーバへのアップロードは、`A1` フォルダの中身 (HTML ファイル) と `exps` フォルダの中身 (画像ファイル) のみを行えば良いことになります。

- `D:\MyDocuments\A1` の中身 → `/wbt/A1/` へ
 - `D:\MyDocuments\A1\img\exps` の中身 → `/wbt/A1/img/exps/` へ
- アップロード手順は、「アップロード手順」冊子を参照して下さい。

ファイルの準備

テンプレートをコピー

まずは、テンプレート HTML ファイルをコピーして、これから作成するページの HTML ファイルを用意して下さい。

① テンプレートを選択

これから作成するページの種類に応じて、適切なテンプレートファイルを選択して下さい。

※各テンプレートの説明は、3 ページから掲載していますので、そちらも参照して下さい。

- 表紙・目次ページ ----- → TempCover.html
- Lesson・Question 分岐ページ - → TempLQIndex.html
- 教材(レッスン)ページ ----- → TempLesson.html
- 練習問題ページ ----- → TempQuestion.html
- 解答・解説ページ ----- → TempAnswer.html

使用するテンプレートを決定したら、それをコピーします。

② HTML ファイル名を決定

コピーしたテンプレートファイルのファイル名は、原稿の左上に記載されているページ文字列 (A1-01-01-L-02 など)をそのまま採用して下さい。

例えば、**A1-01-01-L-02** ページを作成するなら、HTML ファイル名は、**A1-01-01-L-02.html** とします。

※他の名称に勝手に変更しないで下さい。変更すると、リンクがうまく繋がらなくなる他、Web サーバが HTML ファイルに対して動的に行う合成処理がうまく行えなくなります。

上記の手順でファイルができたなら、テキストエディタに読み込んで、編集を開始します。

テンプレート

各テンプレートの HTML ソースを以下に記します。

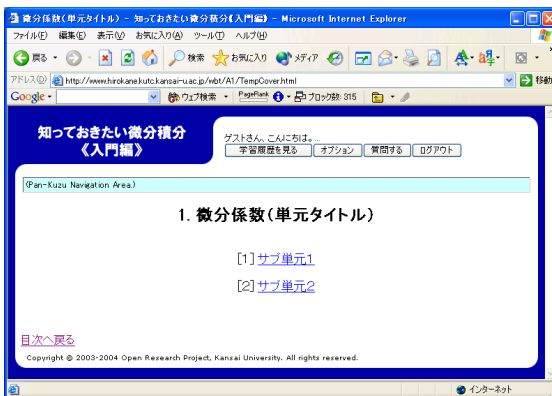
- **緑色部分**は、サーバやシステムが利用するために**絶対に書き換えてはならない箇所**。
CGI プログラムが使うので、1 バイトたりとも書き換ええないよう注意して下さい。スペースを増やしたり、タグの内部で改行したりすると、うまく動かなくなります。(HTML の文法上は問題なくても)
要は、まったく触れなければ問題ありません。
- **赤色部分**は、必ず適切な内容に書き換えなければならない箇所。
この部分を書き換えなくて済むページはありません。忘れずに書き換えて下さい。
- **青色部分**は、サンプルとして記述しているだけの部分。この領域全体を書き換える必要があります。
場合によっては、サンプルがそのまま流用でき、文字だけ書き換えれば良いこともあります。
- **黒色部分**は、特に書き換える必要のない箇所。書き換えても直接の害はない可能性が高いですが、できるだけそのまま放っておいて下さい。
- **紫色部分**は、余力があれば、適切な内容に書き換えて欲しい箇所。放置しても構いません。

表紙・目次ページ(TempCover.html)

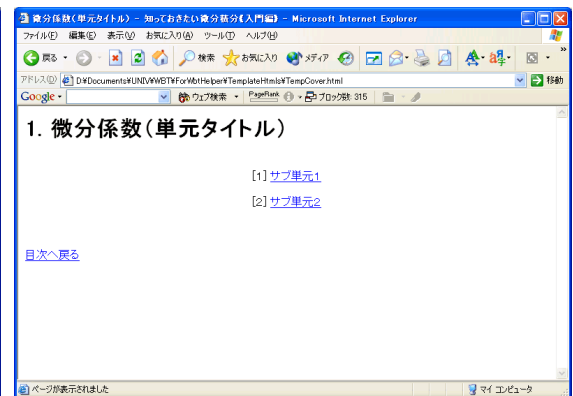
このテンプレートを、サーバ上に置いて表示させると次のようになります。

<http://www.hirokane.kut.c.kansai-u.ac.jp/wbt/A1/TempCover.html>

サーバ上で表示させた場合:



ローカルで表示させた場合:



ソースコード:

```

<!DOCTYPE html PUBLIC "-//W3C//DTD HTML 4.01 Transitional//EN">
<html lang="ja">
<head>
  <meta http-equiv="Content-Type"      content="text/html ; charset=Shift_JIS">
  <meta http-equiv="Content-Script-Type" content="text/javascript">
  <meta http-equiv="Content-Style-Type" content="text/css">

  <title>微分係数(単元タイトル) - 知っておきたい微分積分《入門編》</title>

  <meta name="keywords"   content="WBT, Web Based Training, 数学教材, 関西大学">
  <meta name="description" content="微分積分の Web 学習(Web Based Training)教材.">
  <meta name="author"     content="Open Research Project, Kansai University.">

  <!--#include virtual="/wbt/common/headscripts.shtml" -->
</head>

<body>

<!--#config timefmt="%Y年%m月%d日" -->

<!-- SSI: Header -->
<!--#include virtual="/wbt/common/pageheader.cgi" -->

<!-- Contents -->
<table border="0"   cellspacing="0"   cellpadding="0"   width="100%"><tr><td   bgcolor="#ffffff"
class="mainblock">

  <div class="topnavi"><!--#include virtual="/wbt/common/navi.cgi" --></div>

  <h1>1. 微分係数(単元タイトル)</h1>

  <br>

  <div align="center" class="covermain">
  <table border="0"><tr><td>
    <div class="coversubtitles">
      <p>
        [1] <a href="Sample01-01.html">サブ単元1</a>
      </p>
      <p>
        [2] <a href="Sample01-02.html">サブ単元2</a>
      </p>
    </div>
  </td></tr></table>
  </div>

  <br>
  <br>
  <br>

  <p class="linktoindex">
    <!--#include virtual="/wbt/common/footnavi.cgi" -->
    <a href=" ../A0/A0-04.html">目次へ戻る</a>
  </p>

</td></tr></table>
<!-- /Contents -->

<!-- SSI: Footer -->
<!--#include virtual="/wbt/common/pagefooter.cgi" -->

</body>
</html>

```

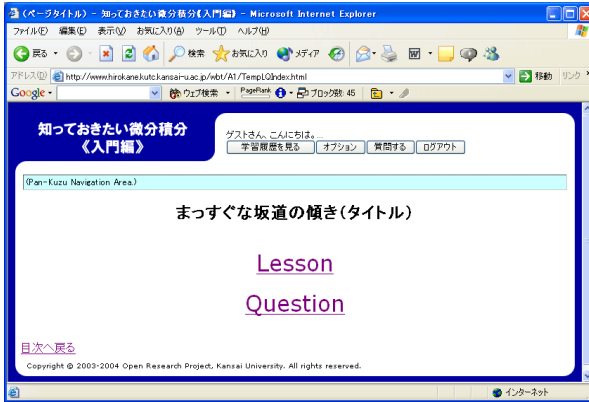
緑色部分は、1バイトたりとも書き換えないよう注意して下さい。スペースを増やすのも NG です。

Lesson・Question 分岐ページ(TempLQIndex.html)

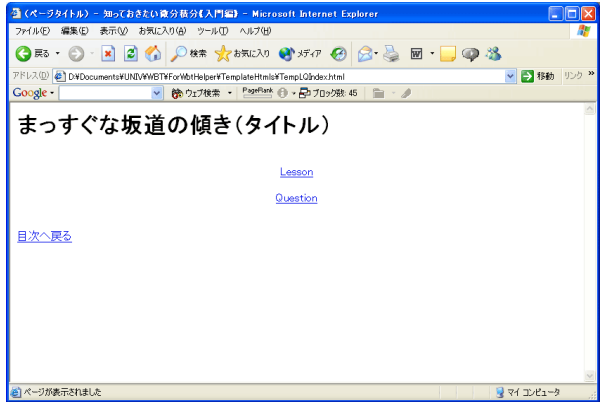
このテンプレートを、サーバ上に置いて表示させると次のようになります。

<http://www.hirokane.kutc.kansai-u.ac.jp/wbt/A1/TempLQIndex.html>

サーバ上で表示させた場合:



ローカルで表示させた場合:



ソースコード:

```
<!DOCTYPE html PUBLIC "-//W3C//DTD HTML 4.01 Transitional//EN">
<html lang="ja">

<head>
  <meta http-equiv="Content-Type"      content="text/html ; charset=Shift_JIS">
  <meta http-equiv="Content-Script-Type" content="text/javascript">
  <meta http-equiv="Content-Style-Type" content="text/css">

  <title>(ページタイトル) - 知っている微積分<入門編></title>

  <meta name="keywords"   content="WBT, Web Based Training, 数学教材, 関西大学">
  <meta name="description" content="微積分の Web 学習 (Web Based Training) 教材.">
  <meta name="author"     content="Open Research Project, Kansai University.">

  <!--#include virtual="/wbt/common/headscripts.shtml" -->
</head>

<body>

<!--#config timefmt="%Y年%m月%d日" -->

<!-- SSI: Header -->
<!--#include virtual="/wbt/common/pageheader.cgi" -->

<!-- Contents -->
<table border="0"   cellspacing="0"   cellpadding="0"   width="100%"><tr><td   bgcolor="#ffffff"
class="mainblock">

  <div class="topnavi"><!--#include virtual="/wbt/common/navi.cgi" --></div>

  <h1>まっすぐな坂道の傾き(タイトル)</h1>

  <br>

```

```

<div class="lqmain">
<p align="center" class="lq">
  <a href="A1-01-01-01-L-01.html">Lesson</a>
</p>
<p align="center" class="lq">
  <a href="/wbt/questions/?group=/A1/A1-01-01-01-Q">Question</a>
</p>
</div>

<br>

<p class="linktoindex">
  <!--#include virtual="/wbt/common/footnavi.cgi" -->
  <a href=" ../A0/A0-04.html">目次へ戻る</a>
</p>

</td></tr></table>
<!-- /Contents -->

<!-- SSI: Footer -->
<!--#include virtual="/wbt/common/pagefooter.cgi" -->

</body>
</html>

```

このテンプレートの場合、書き換えるべき箇所は、「タイトル名」と「リンク先 URL」のみです。

教材(レッスン)ページ(TempLesson.html)

このテンプレートを、サーバ上に置いて表示させると次のようになります。

<http://www.hirokane.kut.ac.jp/wbt/A1/TempLesson.html>

サーバ上で表示させた場合:

知っておきたい微積分
《入門編》

ゲストさん、こんにちは。
[学習履歴を見る](#) [オプション](#) [質問する](#) [ログアウト](#)

(Page-Header Navigation Area)

まっすぐな坂道の傾き(タイトル)

まっすぐな坂道は、式
 $y = px + k \quad \dots (1)$
 で表される。

このとき、坂の傾きは p 、
 基準の点 0 での坂道の高度が km
 基準の点 0 での水平距離 xm
 そこでの坂道の高度が ym
 となる。

この間に登った高さは、 $f(x) = x^2$ とすると、
 $f(1+k) - f(1) = (1+k)^2 - 1^2$
 $= 1 + 2k + k^2$
 $= 2k + k^2 \quad \dots (2)$

である。

[<< 前へ / 次へ >>](#)
[↑ まっすぐな坂道の傾き TOP へ戻る](#)

[目次へ戻る](#)

Copyright © 2003-2004 Open Research Project, Kansai University. All rights reserved.

ローカルで表示させた場合:

まっすぐな坂道の傾き(タイトル)

まっすぐな坂道は、式
 $y = px + k \quad \dots (1)$
 で表される。

このとき、坂の傾きは p 、
 基準の点 0 での坂道の高度が km
 基準の点 0 での水平距離 xm
 そこでの坂道の高度が ym
 となる。

この間に登った高さは、 $f(x) = x^2$ とすると、
 $f(1+k) - f(1) = (1+k)^2 - 1^2$
 $= 1 + 2k + k^2$
 $= 2k + k^2 \quad \dots (2)$

である。

[<< 前へ / 次へ >>](#)
[↑ まっすぐな坂道の傾き TOP へ戻る](#)

[目次へ戻る](#)


```

</p>
<br clear="all">

</div>

<!-- NextPrevLinks -->
<p class="movelink">
  <a href="A1-01-01-01-L-01.html">&lt;&lt; 前へ</a>
  /
  <a href="A1-01-01-01-L-03.html">次へ &gt;&gt;</a>
  <br>
  <a href="A1-01-01-01.html">↑ &quot;まっすぐな坂道の傾き&quot; TOP へ戻る</a>
</p>
<!-- /NextPrevLinks -->
<p class="linktoindex">
  <!--#include virtual="/wbt/common/footnavi.cgi" -->
  <a href=" ../A0/A0-04.html">目次へ戻る</a>
</p>
</td></tr></table>

<!-- SSI: Footer -->
<!--#include virtual="/wbt/common/pagefooter.cgi" -->

</body>
</html>

```

ソース中央の青色部分がメインコンテンツです。

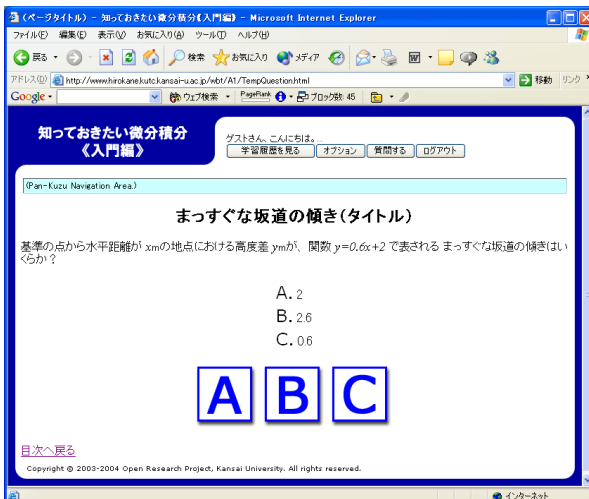
上記のソース中の HTML 記述について、詳しくは、後述の「[コンテンツ作成に関する詳細](#)」を参照して下さい。

練習問題ページ(TempQuestion.html)

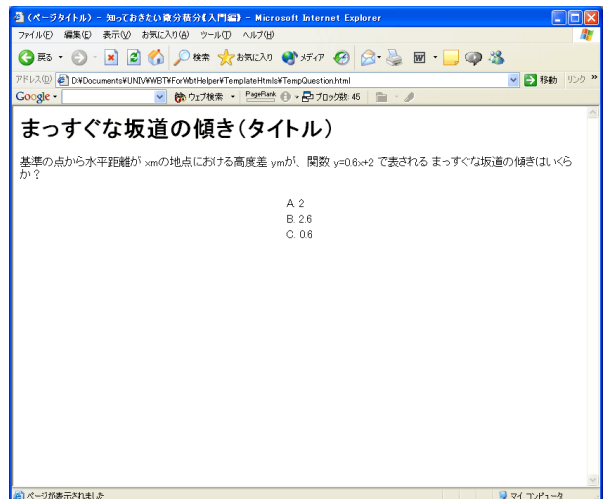
このテンプレートを、サーバ上に置いて表示させると次のようになります。

<http://www.hirokane.kutc.kansai-u.ac.jp/wbt/A1/TempQuestion.html>

サーバ上で表示させた場合:



ローカルで表示させた場合:



ソースコード:

```

<!DOCTYPE html PUBLIC "-//W3C//DTD HTML 4.01 Transitional//EN">
<html lang="ja">

<head>
  <meta http-equiv="Content-Type"      content="text/html ; charset=Shift_JIS">
  <meta http-equiv="Content-Script-Type" content="text/javascript">
  <meta http-equiv="Content-Style-Type"  content="text/css">

  <title>(ページタイトル) - 知っておきたい微分積分《入門編》</title>

  <meta name="keywords"    content="WBT, Web Based Training, 数学教材, 関西大学">
  <meta name="description" content="微分積分の Web 学習 (Web Based Training) 練習問題.">
  <meta name="author"      content="Open Research Project, Kansai University.">

  <!--#include virtual="/wbt/common/headscripts.shtml" -->
</head>

<body>

<!--#config timefmt="%Y年%m月%d日" -->

<!-- SSI: Header -->
<!--#include virtual="/wbt/common/pageheader.cgi" -->

<!-- Contents -->
<table border="0"   cellspacing="0"   cellpadding="0"   width="100%"><tr><td   bgcolor="#ffffff"
class="mainblock">

  <div class="topnavi"><!--#include virtual="/wbt/common/navi.cgi" --></div>

  <h1>まっすぐな坂道の傾き(タイトル)</h1>

  <div class="questionmain">

    <p>
      基準の点から水平距離が <span class="expression">x</span>m の地点における高度差
      <span class="expression">y</span>m が、
      関数 <span class="expression">y=0.6x+2</span> で表される まっすぐな坂道の傾きはいくらか?
    </p>

    <div align="center" class="answers">
      <table border="0">
        <tr><td class="choice"><span class="mark">A.</span> 2</td></tr>
        <tr><td class="choice"><span class="mark">B.</span> 2.6</td></tr>
        <tr><td class="choice"><span class="mark">C.</span> 0.6</td></tr>
      </table>
    </div>

  </div>

  <!-- SSI: Answer Buttons -->
  <!--#include virtual="/wbt/questions/buttons.shtml" -->

</td></tr></table>

<!-- SSI: Footer -->
<!--#include virtual="/wbt/common/pagefooter.cgi" -->

</body>
</html>

```

このソースは、実際に表示される際には、CGI プログラムを介して表示されます。

このソース中には、選択肢をクリックする「ボタン」を表示するためのソースが含まれていません。「ボタン」を表示するためのソースは、CGI によって動的に生成・合成されますので、このソースには含みません。

解答・解説ページ(TempAnswer.html)

このテンプレートを、サーバ上に置いて表示させると次のようになります。

<http://www.hirokane.kuttc.kansai-u.ac.jp/wbt/A1/TempAnswer.html>

サーバ上で表示させた場合:

Question.2の解答 - (問題ページタイトル) - 知っておきたい微分積分(入門編) - Microsoft Internet Explorer

http://www.hirokane.kuttc.kansai-u.ac.jp/wbt/A1/TempAnswer.html

知っておきたい微分積分
《入門編》

まっすぐな坂道の傾き(タイトル)

問題

基準の点から水平距離が x m の地点における高度差 y m が、関数 $y=0.6x+2$ で表される まっすぐな坂道の傾きはいくらか?

A. 2
B. 2.6
C. 0.6

解答

$y=0.6x+2$ のグラフ

傾き 0.6

解答: C

ローカルで表示させた場合:

Question.2の解答 - (問題ページタイトル) - 知っておきたい微分積分(入門編) - Microsoft Internet Explorer

D:\Documents\KUNIKUN\WBT\ForWbtHelper\Template\Html\TempAnswer.html

まっすぐな坂道の傾き(タイトル)

問題

基準の点から水平距離が x m の地点における高度差 y m が、関数 $y=0.6x+2$ で表される まっすぐな坂道の傾きはいくらか?

A. 2
B. 2.6
C. 0.6

解答

$y=0.6x+2$ のグラフ

解答: C

ソースコード:

```
<!DOCTYPE html PUBLIC "-//W3C//DTD HTML 4.01 Transitional//EN">
<html lang="ja">

<head>
<meta http-equiv="Content-Type" content="text/html ; charset=Shift_JIS">
<meta http-equiv="Content-Script-Type" content="text/javascript">
<meta http-equiv="Content-Style-Type" content="text/css">

<title>Question.2の解答 - (問題ページタイトル) - 知っておきたい微分積分《入門編》</title>

<meta name="keywords" content="WBT,Web Based Training,数学教材,関西大学">
<meta name="description" content="微分積分のWeb学習(Web Based Training)練習問題の解答.">
<meta name="author" content="Open Research Project, Kansai University.">

<!--#include virtual="/wbt/common/headscripts.shtml" -->
</head>

<body>

<!--#config timefmt="%Y年%m月%d日" -->

<!-- SSI: Header -->
<!--#include virtual="/wbt/common/pageheader.cgi" -->
```

```

<!-- Contents -->
<table border="0" cellspacing="0" cellpadding="0" width="100%"><tr><td bgcolor="#ffffff"
class="mainblock">

  <div class="topnavi"><!--#include virtual="/wbt/common/navi.cgi" --></div>

  <h1>まっすぐな坂道の傾き(タイトル)</h1>

  <h2 class="questiontitle">問題</h2>

  <div class="questioncopy">

    <p>
      基準の点から水平距離が <span class="expression">x</span>m の地点における
      高度差 <span class="expression">y</span>m が、
      関数 <span class="expression">y=0.6x+2</span> で表される まっすぐな坂道の傾きはいくらか？
    </p>
    <div align="center">
      <table border="0">
        <tr><td><span class="mark">A.</span> 2</td></tr>
        <tr><td><span class="mark">B.</span> 2.6</td></tr>
        <tr><td><span class="mark">C.</span> 0.6</td></tr>
      </table>
    </div>
  </div>

  <h2 class="answertitle">解答</h2>

  <div class="answermain">

    <p>
      <span class="expression">y=0.6x+2</span> のグラフ
    </p>
    <p>
      
    </p>

    <p class="answer">
      解答. C
    </p>

  </div>

  <!-- SSI: Return Links -->
  <!--#include virtual="/wbt/questions/returnlink.shtml" -->

</td></tr></table>

<!-- SSI: Footer -->
<!--#include virtual="/wbt/common/pagefooter.cgi" -->

</body>
</html>

```

このテンプレートには、「前のページへ戻る」リンクがありません。この「解答・解説ページ」は、CGI を介して表示され、その際に、前のページ(成績結果ページ)へ戻るリンクも動的に生成されますので、ソースに「前のページに戻るリンク」を含める必要はありません。

グループデータファイルの作成

作成した各 HTML は、それぞれ独立した 1 つのページとして存在することになりますが、練習問題 HTML とその解答 HTML に関しては、正誤判定や成績管理を行うため、練習問題表示用 CGI (プログラム) から呼び出す形で (ブラウザに) 表示します。

そのため、CGI プログラムに対して、練習問題と解答ページのセット情報を渡すための、「グループデータファイル」というファイルを作成して頂く必要があります。

このファイルは、ただ、練習問題 HTML ファイル名と、解答 HTML ファイル名を、順番に列挙しただけのテキストファイルです。

テンプレート(TempGroupDataFile.txt)

グループデータファイルのテンプレートも用意していますので、これを参考に作成して下さい。

中身は次のようになっています。

```
# 問題 HTML を順番に記述
Q:/A1/A1-01-01-01-Q-01.html
Q:/A1/A1-01-01-01-Q-02.html
# 解説 HTML を順番に記述
A:/A1/A1-01-01-01-Q-01-A.html
A:/A1/A1-01-01-01-Q-02-A.html
```

これは、練習問題ページの HTML ファイルと、解答・解説ページの HTML ファイルを順番に列挙しただけのファイルです。

(ファイル名の先頭に、「Q:」や「A:」という 2 文字が必要です。「Q:」は練習問題ページを示す記号、「A:」は解答・解説ページを示す記号です。)

このファイルは、1 つの練習問題セットごとに 1 つ作成して下さい。

例えば、次のような原稿番号の問題群があった場合、

- A1-01-01-01-Q-01
- A1-01-01-01-Q-02
- A1-01-01-01-Q-03

この 3 ページを 1 セットと考えて、「A1-01-01-01-Q」という名称のグループデータファイルを作成します。

(ファイル名は、A1-01-01-Q.txt となります。拡張子は.txt)

ディレクトリ構造

サーバ(<http://www.hirokane.kutc.kansai-u.ac.jp/>)上のディレクトリ構造は、次の通りです。

- 教材 HTML ファイル: /wbt/A1/
- 画像(図)ファイル: /wbt/A1/img/figs/
- 画像(数式)ファイル: /wbt/A1/img/expes/

詳しくは、「完成の外観と URL 規則」冊子の 11 ページ「URL 規則」を参照して下さい。

リンク先

すべての教材 HTML には、別のページへ移動するためのリンクがあります。

リンク先の指定方法は、次の通りです。

リンク先が、表紙・目次・教材(レッスン)の場合

該当ページの HTML ファイルへ直接リンクして下さい。

例:

```
<a href="A1-01-01-L-02.html">次のページへ</a>
```

リンク先が、練習問題ページの場合

練習問題ページは、CGI を介して表示しますので、HTML ファイルを直接リンク先にはせず、次のように、CGI とグループデータファイルで構成される文字列をリンク先にして下さい。

例:(グループデータファイル名が、A1-01-01-Q.txt の場合)

```
<a href="/wbt/questions/?group= A1-01-01-Q">Question</a>
```

コンテンツ作成に関する詳細

教材 HTML ファイルを作成する上での注意点などです。
良く読んで作成をお願いします。

HTML 記述

教材中に登場する、いくつかのパターンについて、記述方法を紹介しておきます。

図を挿入

図を挿入するには、次のように記述します。

```

```

上記の「A1-01-01-01-L-02.a.png」部分に画像ファイル名を記述します。ファイル名の命名規則は決まっていますので、原稿番号から、そのページで使用すべき図の画像ファイル名は簡単に分かります。命名規則は、後述の「数式画像や図画像のファイル名の命名規則」ページを参照して下さい。

図を、文字の右側に配置したいなら、「align="right"」と記述しておきます。もし、文章の下に配置したいなら、「align="xxx"」の記述は不要ですので削除します。例えば次のように。

```

```

数式を記述(テキストで)

画像にするまでもない単純な数式は、HTML 中にテキスト(文字)で直接記述して下さい。

その際は、次のように記述して下さい。

```
<p class="expression">  
   $y = px + k$     <span class="number"> ... (1) </span>  
</p>
```

ここでは、「 $y = px + k$ 」が表示する数式です。上記のようなタグで囲むことで、数学の数式らしい書体で表示されるようになります。

また、数式には必ず式番号を付加して下さい。上記の「(1)」が式番号です。

※<p class="expression">から</p>までは、その範囲が「数式」であることを表しています。からまでは、その範囲が「式番号」であることを表しています。

文章の途中に登場する数式や記号

「 x が p から q まで変化するとき、 y の値は…」のように、文章中に数式や記号が登場する場合は、次のように記述して下さい。

```
<span class="expression">x</span>
```

例えば、次のように文中で使用します。

変数xがpからqまで変化するとき…

このように、数式や記号を「``」と「``」で囲んで下さい。そうすると、その範囲だけ、数式らしい書体で表示されます。

数式画像の挿入

テキストでは表現できない複雑な構造や記号がある数式は、画像で作成して下さい。(数式画像の作成方法は、「数式画像の作成手順」冊子を参照して下さい。)

数式画像の挿入は、次のように記述します。

```
<!-- EXP -->

<!-- /EXP -->
```

上記の「A1-01-L-01.1.png」部分に数式画像ファイル名を記述します。ファイル名の命名規則は決まっていますので、原稿番号から、そのページで使用すべき図の画像ファイル名は簡単に分かります。命名規則は、後述の「数式画像や図画像のファイル名の命名規則」ページを参照して下さい。

なお、先頭の「`<!-- EXP -->`」と末尾の「`<!-- /EXP -->`」は、なくても HTML 的には問題ないのですが、プログラム側で使用しますので、忘れずに記述して下さい。

図の配置

図の表示位置は、次のようにして下さい。

- 教材本文の右側が広く空いているようなら、右側に表示させる。
- 教材本文の右側に十分なスペースが取れないようなら、下側に表示させる。

数式を作成する際の注意

テキスト(文字)で数式を記述する際は、次の点に気を付けて下さい。

- 「+」「-」「=」などの記号は、半角ではなく全角で記述して下さい。
半角文字の記号を欧文フォントで表示させると、非常に小さくなってしまっていて見づらいため、記号は全角文字を使用して下さい。
- 数式には式番号をページごとに振る
数式には、必ず式番号を振って下さい。番号は、ページごとに振ります。
そのページ中に登場する最初の式を (1) とし、順に増やして下さい。

ナビゲーション

どのページも、ページ末尾には、

- 「前のページ」
- 「次のページ」
- 「1つ上の階層(目次)へ戻る」

…などのナビゲーションリンクを付けて下さい。

テンプレートにありますから、基本的には、リンク先を書き換えるだけで済みます。

もちろん、「次のページ」が存在しない場合は、「次のページ」リンクは不要なので、その部分は削除して下さい。

(なお、このナビゲーションリンクは、必ず HTML ファイルを直接指定し、JavaScript などは使用しないで下さい。)

HTML メモ

この教材作成では、基本的にはテンプレートを書き換えるだけで済みますので、あまり HTML の知識は必要ではありません。

しかし、全く不要というわけではないので、以下に簡単に説明しておきます。もし、もっと詳しく知る必要がある場合は、図書館などにある HTML のリファレンスなどを参照して下さい。

改行

HTML ソース中で改行しても、実際の表示では改行されません。

改行したい場合は、`
` と記述します。

`
` を 1 つ記述するごとに、1 回改行されます。

ですから、`

` と記述すれば、3 回改行されることになります。

段落

文章を記述する際、1 つの段落は、`<p>~</p>` で囲みます。

例:

```
<p>
    あるところに、おじいさんとおばあさんが居ました。
    おじいさんは川へ洗濯に、おばあさんは山へ芝刈りに...
</p>
```

表

目次や解説の中で、表を使用している箇所があります。表は、次のように記述します。

```
<table border="1" cellspacing="1" cellpadding="1">
<tr>
    <td>1 行 1 桁目</td>
    <td>1 行 2 桁目</td>
    <td>1 行 3 桁目</td>
</tr>
<tr>
    <td>2 行 1 桁目</td>
    <td>2 行 2 桁目</td>
    <td>2 行 3 桁目</td>
</tr>
</table>
```

※`<tr>~</tr>`で 1 つの行を、`<td>~</td>`で 1 つのセルを表します。

数式画像や図画像のファイル名の命名規則

図の画像は、既に作成済みです。それらは、以下の命名規則に従ってファイル名が付加されていて、サーバにアップロードされています。ですから、その命名規則に従って考えれば、その教材ページで表示すべき図のファイル名が分かります。

数式の画像も同様になるよう、以下の命名規則に従ってファイル名を付加するようにして下さい。

図の画像ファイルの命名規則

例えば、教材 HTML ファイル名が、[A1-01-01-L-02.html](#) だった場合、

- そのページ内に登場する 1 番目の図のファイル名は、[A1-01-01-L-02.a.png](#) となります。
- そのページ内に登場する 2 番目の図のファイル名は、[A1-01-01-L-02.b.png](#) となります。

例えば、教材 HTML ファイル名が、[A1-01-01-Q-03-A.html](#) だった場合、

- そのページ内に登場する 1 番目の図のファイル名は、[A1-01-01-Q-03-A.a.png](#) となります。
- そのページ内に登場する 2 番目の図のファイル名は、[A1-01-01-Q-03-A.b.png](#) となります。

画像形式は、すべて PNG 形式です。

数式画像ファイルの命名規則

例えば、教材 HTML ファイル名が、[A1-01-01-L-02.html](#) だった場合、

- そのページ内に登場する 1 番目の式のファイル名は、[A1-01-01-L-02.1.png](#) となります。
- そのページ内に登場する 2 番目の式のファイル名は、[A1-01-01-L-02.2.png](#) となります。

ここでの「1」「2」といった番号は、教材中に表示する「式番号」と一致させて下さい。

画像形式は、すべて PNG 形式でお願いします。

数式画像ファイルの作成方法に関しては、「数式画像の作成手順」冊子を参照して下さい。